あいち病害虫情報 最新情報

平成２６年５月１６日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ムギ類の病害

５月上旬及び中旬の調査では、一部でコムギうどんこ病の発生が認められますが、ムギ類赤かび病の発生は、過去１０年で最も少ない状況です。

気象予報によれば、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多く、平均気温は低い確率５０％と予想されています。

降雨は、赤かび病の発病を助長しますが、第二次伝染源となる発病穂がほとんどみられないこと、気温が低いと予想されていることから、赤かび病の第二次伝染は少ないと予測します。

当場企画普及部広域指導室が５月１２日に発表した麦作管理支援情報第４号によれば、気温が平年並に推移した場合、農林６１号（出穂期：４月２０日）の成熟期は６月６日（平年：６月６日）で、この成熟期予測をイワイノダイチ、きぬあかり（ともに出穂期：４月15日）に適用すると、成熟期は６月３日と予測されています。

収穫期が近づいていますので、農薬を散布する場合は使用回数や収穫前日数に留意して、飛散防止にも十分注意しましょう。

果樹カメムシ類

現在、果樹カメムシ類が東三河地域山間部のウメ園に多飛来し落果など大きな被害が発生しています。平坦部におけるフェロモントラップ誘殺状況から、県内の広い地域で果樹カメムシ類の果樹園への飛来が始まっていると推測します。今後、気温の上昇とともにさらに活動が活発になり、平坦部の果樹園に多飛来すると予測しますので、防除の準備をしましょう。詳細は、本日発表の「果樹カメムシ情報第１号」を参照してください。

果樹の病害

現在の落葉果樹の生育及び病害の発生は、おおむね平年並です。しかし気象予報によれば、今後天気は数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されています。連続した降雨があると、病害が発生しやすくなりますので、天気予報に留意して、適期防除を心がけましょう。

モモせん孔細菌病は、強風を伴う降雨があった場合、発生が助長されますので、防除を徹底しましょう。また、枝病斑は伝染源になるので、見つけ次第切除しましょう。

ブドウ晩腐病は、開花直前から防除適期に入ります。開花期の重点防除時期を逃さないようにしましょう。

果樹の害虫

果樹のカイガラムシ類の防除適期は第１世代１齢幼虫発生ピークです。有効積算温度を利用した第１世代１齢幼虫の発生ピーク予測日は、ナシマルカイガラムシは５月３０日から６月５日、フジコナカイガラムシは６月３日から１０日でおおむね前年並です。本日発表の「フジコナカイガラムシ情報第１号」「ナシマルカイガラムシ情報１号」を参考に防除適期を逃さないようにしましょう。

チャノキイロアザミウマ第１世代の防除適期は成虫の発生ピークです。有効積算温度を利用した第１世代成虫の発生ピーク予測日は、５月２０日から２５日でおおむね前年並です。ブドウでは、袋がけ前に防除を徹底することが重要です。本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第１号」を参考に、防除適期を逃さないようにしましょう。

キクの病害虫

露地ギクは定植時期に入っています。定植用苗は、白さび病などの感染がないものを用いましょう。

○ 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
○ 農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
○ 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。
- 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
- 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
- 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
- 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

問合せ先　愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085　FAX 0561-63-7820